

第53回隊友ふれあいウォーキング実施報告

第53回隊友ふれあいウォーキングは、「埼玉県寄居町に国指定史跡・鉢形城を訪ねる」をテーマに11月25日(土)予定通り実施しました。

今回のウォーキングは、年末時期の諸行事と重なり、且つ遠距離であったことから参加人員は過去最低の5名でした。朝早く起きて参加して頂いた会員の皆様に感謝申し上げます。

寄居駅を0930に出発、先ずは「鉢形城址」を見学することとし、ボランティアガイド・吉田さんとの約束の場所の鉢形城笹曲輪に向かいガイドと会った後、ガイドの案内により城の搦め手、馬出、外曲輪、土塁の一部を見学した後、鉢形城歴史館に於いて鉢形城の歴史を学びました。

文明8年(1476)6月、関東管領山内上杉顕定の家臣である長尾景春が鉢形城を拠点として、顕定に叛きました。これは、山内上杉氏の家宰であった景春の父の景信の死後、叔父にあたる忠景が家宰職を継いだことに端を発したものです。この時、山内上杉顕定は扇谷上杉定正等とともに五十子の陣で古河公方足利成氏と対陣していましたが、相模・武蔵各地で景春党が蜂起し、上杉顕定軍は上野国に退去することとなりました。その後、扇谷定正の家宰太田道灌が各地の景春党を鎮圧し、更に用土原で景春軍を破り、文明10年(1478)7月に鉢形城を攻略し、関東管領山内上杉顕定が入城しました。その後、鉢形城に入った山内上杉顕定は、川越城を拠点として台頭して来た扇谷上杉定正と対立し、景春の乱を平定し名を挙げた太田道灌により、定正の勢力が拡大することを恐れ、文明18年(1486)7月、讒言をもって道灌を定正に謀殺させたと云われています。(※上杉定正は、勇将ではあったが智将ではなかった)

時代は降り、天文15年(1546)、山内上杉憲正と扇谷上杉朝定の連合軍が後北条三代当主北条氏康と川越に於いて衝突し、両上杉軍が大敗しました。(川越夜戦)

在地の豪族藤田氏は山内上杉氏の家老でしたが、川越夜戦の敗北後、藤田泰邦は氏康の第四子氏邦に娘大福御前を娶らせ居城の天神山城と家督を譲りました。氏邦は秩父地方を勢力圏に治めた後、上野進出の拠点として、関東管領の居城であった鉢形城を拡張し、支配領の中心としました。

鉢形城歴史館で、鉢形城の歴史を学んだ後、ガイドさんの案内で深沢川を渡り、二の曲輪、三の曲輪、本曲輪等を巡り、鉢形城の研修を終えました。

駅付近のレストランで昼食後、七代目松本幸四郎別邸跡地である雀宮公園を訪ねましたが、丁度紅葉が見頃で荒川の景色とマッチして、素晴らしい眺めでした。暫し、公園内を散策した後、寄居駅に向かい駅で解散しました。



三の曲輪四脚門



雀宮公園の紅葉

